



「2025年、乙巳(きのとみ)の年」

学校長 のむら 野村 ひかる 光

2025年、新年がスタートしました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

昨年は1月1日に能登半島地震が発生し、大変な年の始まりとなったことを思い起こします。震度7という大きな地震では多くの方が亡くなり、1年経った今でも被災地では未だ水道も使えない場所もあるようで、本当に切ない気持ちになります。被災された方々に一日も早く穏やかな日常が戻ることを、心よりお祈り申し上げます。

さて、子どもたちはどのような新年を迎えたのでしょうか。今年の干支は、乙巳(きのとみ)です。60年周期の干支の中で42番目に位置し、「努力を重ね、物事を安定させていく」という意味合いをもつ年とされているようです。また、巳(へび)には、「新しい未来が始まる」といった意味もあります。これは、脱皮を繰り返し成長するへびの生態に由来し、生命力や再生、変化と進化の象徴とされているからだそうです。

教育界に目を向けると、今年は、2022(令和4)年度から始まった第4期横浜市教育振興基本計画のまとめの年となります。振り返ると、この数年間で、学校では多くのことが新たに始まりました。1人1台端末の導入で日々の授業の様子も変わりました。また、市内の市立学校が共通ソフトで家庭と繋がる仕組みも始まりました。これまでの当たり前が当たり前ではなくなったことを目の当たりにしてきた、スピード感のある数年間だったと思います。次年度からの第5期に向けて教育はまた大きな変革の年となるはずです。

「不易と流行」という言葉があります。また、「温故知新」という孔子による論語もあります。今、まさにこれらの意味するところを大切に受けとめ、過去の経験から学びつつ、新しいことを柔軟に受け入れアップデートしていきたいと思います。子ども一人ひとりの個性に応じた成長に向けた教育活動を展開し、「明日もまた通いたくなる学校」を作っていけたらと思います。引き続きよろしくお願いいたします。



洋光台第二小学校の子どもたちは、栗木学援隊、洋光台学援隊、そして保護者見守りボランティア等多くの方々の支援を受け、安全な登下校ができています。ここに改めて感謝致します。栗木学援隊におかれましては、平成19年1月の発足以来18年間の長きにわたり活動を続けてこられました。この業績に対して、この度、横浜市教育委員会から表彰を受けられましたことをご報告申し上げます。